

## 1988年3月18日の皆既日食ツアー状況

編集部

来年3月の皆既日食の準備は、もうそろそろ始めなくてはならない時期です。しかし、今年9月23日の金環食のため、なかなか3月のものまで手がまわらないようです。3月18日といえば年度末。今年3月29日のガボン日食は、学校の先生にとっては都合がよかったようですが、3月18日では先生にとっても休暇はむずかしそうです。結局、出かけるのは学生が主体になるかもしれません。

さて、ツアーの方ですが、皆既帯が大部分海上であるため、船上観測の計画が出ています。また、陸地での観測では、フィリピンのミンダナオ、ボルネオ東部、スマトラのペレンバン付近などが観測地候補に上り、計画が始まっているようです。また、休暇の取りにくい人のために、飛行機で一萬メートル上空から観測して、1日で済まそうという案も出ています。

船上観測は、空の状況によって移動できるメリットがあります。その反面、数百人単位になるため、甲板上での場所の確保・船のゆれ・船酔い、そして、全行程に日数がかかる欠点もあります。

陸上では、天文学的条件はミンダナオが最高なのですが、政情不安が何よりも心配です。今までの日食観測ツアーとは全く違う覚悟が必要になるかもしれません。ボルネオやスマトラは天候や太陽高度、そして費用の点でミンダナオに劣ります。

飛行機による観測は、1万メートル以上の上空ですから、雲の心配はなく、日食は確実に見られます。また、1日で済むというメリットがあります。しかし、太陽高度が高いことと、飛行機の窓ガラス(プラスチック)のせいで、肉眼ではともかく、写真撮影はかなりむずかしいと考えなくてはなりません。

以上のように、それぞれ一長一短を持つツアーですから、自分の目的・置かれた状況によって、最適のものを選ぶ必要があるでしょう。いずれもまだ正式に発表はされていません。詳細がわかり次第、順次お知らせしたいと考えています。また、読者の皆さんからの情報もよろしくお願い致します。